

第七十四回帝國議會
衆議院

船舶建造融資補給及損失補償法案外二件委員會會議錄(速記)第三回

付託議案
船舶建造融資補給及損失補償法案
(政府提出)
海運組合法案(政府提出)
造船事業法案(政府提出)

會議

昭和十四年三月十五日(水曜日)午後一時二十三分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野田 文一郎君

理事中川 重春君 理事木原 七郎君

理事佐藤洋之助君

木原 七郎君 山本 厚三君

川副 隆君 小林房之助君

高木条太郎君 板谷 順助君

濱地 文平君 芦田 均君

板野 友造君 紅露 昭君

春名 成章君 青木 精一君

岡崎 憲君 小山 亮君

同月十四日委員則元卯太郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ川副隆君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣兼遞信大臣 鹽野 季彦君

出席政府委員左ノ如シ

興亞院總務長官 柳川 平助君

興亞院部長 日高信六郎君

文部政務次官 小柳 牧衛君

遞信政務次官 平川松太郎君

遞信參與官 上田 孝吉君

遞信省管船局長 伊勢谷次郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

管船局書記官 新谷寅三郎君

管船局書記官 長井 實行君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出)

○野田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、遞

信大臣外文部、厚生、拓務ノ各大臣ノ御出

席ノ御要求ガアリマシタガ、只今參議ノ會

議デ出席ガ出來ヌサウデス、但シ遞信大臣

ハ今聽キマス總理大臣官邸ヲ既ニ出ラレ

タサウデスカラ、程ナクコチラヘ著カレル

ト思ヒマス、大臣出席マデ他ノ政府委員ニ

御聽ニナル方ノ、御發言ニナルコトニシテ

ハ如何デセウ

○板谷委員 私ハ議事進行ニ付テ發言ガア

リマス、私ハ此ノ際委員長ヲ通ジテ委員會ニ

諮ツテ載キタイト思フノデアリマスルガ、我

國ノ海運政策ハ言フマデモナク海外ノ發展

ニ重キヲ置クト云フ其ノ見地カラ、此ノ度

此ノ法案ヲ御出シニナツタコト思フノデ

アリマス、此ノ法案ノ内容ヲ調べテ見マス

ト、不十分デハアリマスルケレドモ、我國

ノ船舶ノ將來ニ對スル遞信當局ノ御努力ニ

對シテハ、敬意ヲ表スル、併シナガラ多年

ノ懸案デアリマス所ノ、内外地ヲ通ジテノ

海事行政ノ統一、此ノ問題ニ付キマシテハ私

ハ議會毎ニ、此ノ點ニ付テ政府ニ質問シテ

居ルノデアリマス、殊ニ兒玉遞信大臣ノ時

代ニ船舶關係ノ問題ガ出マシテ、大臣トシ

テモ出來ルダケ考慮スル、成ベク實行スル

意思デアルト云フヤウナ御話ガアツタノデ

アルガ、議會ノ會期切迫ノ爲ニ、遂ニ實現

ヲ見ナカッタノデアリマス、遞信大臣ニ對

シマシテ一昨日モ、此ノ問題ニ付テ質問ヲ

シタノデアリマスガ、自分ハ微力デアツテ

云々ト云フヤウナ、謙遜ナ言葉デ御答ニナ

ツテ居リマシタガ、此ノ重大問題ハ何トシ

テモ、議會開會中デナケレバ解決ガ出來ナ

イ、デアルカラシテ委員長カラ委員會各員

ニ御諮リヲ願ツテ、此ノ委員會ニ關係各省

ノ當局者ノ出席ヲ求メテ、是非トモ此ノ機

會ニ於テ此ノ問題ヲ解決シタイ、斯ウ考ヘ

ルノデアリマス、唯實行スル意思ガアルト

カ、考ヘルト云フヤウナコトデ、此ノ問題

ガ解決セザル限りハ、只今上程サレテ居ル

所ノ法案ノ如キモ、極メテ薄弱デアツテ、

效力ガ薄イ、斯ウ云フ信念カラ先日モ質問

シタノデアリマスガ、政府ノ答辯ハ要領ヲ

得マセヌ、デアルカラシテ此ノ問題ヲ先決

問題トシテ、委員會ノ各委員ノ御意向ヲ御

聽キノ上、幸ヒ同意デアツタナラバ、委員

長トシテ至急其ノ取計ヒヲ願ヒタイ

○野田委員長 一寸板谷君ニ伺ヒマスガ、

内外地ヲ通ジテノ海事行政ヲ統一シナケレ

バナラス、ソレデ遞信大臣ノ答辯デハマダ

要領ヲ得ナイカラ、ソレデドウスルト云フ

ノデセウカ、一寸聽キ洩ラシマシタガ……

○板谷委員 遞信大臣ノ答辯デハ要領ヲ得

ナイカラ、此ノ問題ト關聯致シマシテ、此

ノ問題ガ解決セザル限りハ、此ノ法案ノ効

力ハ薄イ、斯ウ云フ信念カラ此ノ機會ニ於

テ、此ノ問題ヲ解決スルコトニ付テ、關係

各省ノ當局ガ此處ニ出席ヲサレテ、十分ナ

ル所ノ審議ヲ行ヒタイ、斯ウ云フノデアリ

マス

○野田委員長 重ネテ伺ヒマスガ、關係各

省ト云フト、何處々々ニナリマスカ

○板谷委員 先ヅ第一ニ拓務大臣ヲ要求シテ置キマシタガ、其ノ外ニ朝鮮總督府ノ政務總監、關東州ノ管轄デ對滿事務局總裁、ソレカラ臺灣ノ政府委員、ソレカラ興亞院ノ總裁デアリマス

○野田委員長 サウスルト板谷君ノ御要求ハ拓務大臣、對滿事務局總裁、朝鮮總督府政務總監デ宜イデセウ、臺灣ノ政府委員、興亞院ノ總裁、斯ウ云フ人ノ出席ヲ得テ質疑ヲシテ其ノ問題ヲ解決シタイ、斯ウ云フコトニ諒承シテ宜イデスカ

○板谷委員 サウデス

○野田委員長 サウスルト結局是等ノ國務大臣若シクハ政府委員ノ出席ノ要求ト云フコトニナルノデスネ

○板谷委員 サウデス

○青木委員 關聯シタ議事進行デス、板谷君ノ議事進行ヲ通ジテノ要求ハ至極尤ダト存ジマスガ、先決問題ト云フノハ此ノ委員會ノ審議ノ先決問題ト云フ意味カ、本案ガ成立シテカラ效力ヲ舉ゲル意味ニ於テ外地、内地ノ統一ガ付カナケレバ效力ガ薄イカラト云フ意味ナラバ御尤ト思ヒマスガ、審議進行ノ上ニ於ケル先決問題ト云フコトニナリマスルト、ソコヲ少シ緩和シテ戴キタイ、

審議ハ審議トシテ進メラレテ、サウシテソレカラ外地關係ノ政府委員ノ都合ノ付ク時ニ出席ヲ求メテ、其ノ問題ニ對シテヤリタイト云フ風ニシテ、審議ノ先決問題ト云フ點デナク進メテ行キタイト思ヒマス

○野田委員長 板谷君ノ趣意モ青木君ノ仰セノ通りニ解釋シテ宜イノデアリマスカ、出席ヲシナケレバ審議ヲ進メスト云フ意味デヤナイノデスネ

○板谷委員 大體今申シマスル通り、此ノ問題ガ解決セザル限りハ、本案ガ假令通過ハ致シマシテモ效力ガ薄イカラ、出來ルナラバ先決問題トシテ解決シテ戴キタイト云フノデアリマスケレドモ、委員ノ多數ノ諸君ガ審議ヲ進メ、一方ニ於テ此ノ問題ヲ解決スルト云フノデアルナラバ多數ニ從ヒマス

○野田委員長 マダ多數デアルカナイカ諸ツテ居リマセスガ、審議ヲ進メナイト云フコトニナリマス……出來ル程度ニ於テ審議ヲ進メテ、尙ホ是等ノ當局ニ出テ貰ツテ進メルト云フコトニシテハドウデスカ

○板谷委員 幸ニ今遞信大臣ガ御出席ニナツタカラ、改メテ此ノ際申上ゲタイノデアリマスルガ……

○野田委員長 今ノ點ヲ先ニ伺ヒタイノデ

スガ、遞信大臣ニ對スル御要求デナシニ、議事ヲ如何ニスルカト云フコトノ方ヲ先ニ決メタイ

○板谷委員 議事ヲ進メルト云フコトハ一日モ此ノ問題ノ解決ト併行シテヤツテ戴キタイト云フコトヲ申上ゲテ居ルノデス、デスカラ多數ノ諸君ガサウ云フ御考デアレバ、青木君ノ御話モアルコトデスカラ其ノ點ハ別ニ異議ヲ申シマセス、何トシテモ此ノ問題ハ重大問題デアツテ、此ノ問題ガ解決セザル限りハ如何ニ遞信當局ガ御努力ニナツテモ、朝鮮ハ朝鮮、或ハ關東州ハ關東州、臺灣ハ臺灣デ勝手ナ單獨ナ方針ヲ執ツテ居ラレテハ、統制ナド出來ハシナイ、民間ノ當業者ニ對シテ組合ヲ作ツテ之ヲ統制スルト云フガ、ソレヨリモ先ヅ前ニ政府部内ノ統一ヲスルト云フ必要ガアル、斯ウ云フ見地カラ私ハ要求シテ居ルノデアリマス、遞信大臣ハ先日モ自分ハ微力ダト云フヤウナ謙遜ナ御言葉ヲ御使ヒニナツテ居ルガ、平沼内閣ノ副總理ノ重大ナ役目ヲ持ツテ居ラレ方デアリマスシ、殊ニ又現在議會ト政府ト協力シテ、有ユル國難ヲ打開スルコトニ努力シテ居ル際デアリマスルカラ、此ノ機會ニ於テ是非トモ一ツ此ノ問題ノ解決ヲ圖ツテ貰ヒタイト云フ考デアリマスガ、遞信

大臣ノ御決意ヲ伺ヒマス

○野田委員長 サウスルト板谷君ニ伺ヒマスガ、アナタノ質疑ヲ繼續シタイト云フコトニ伺ツテ宜シウゴザイマスカ、サウスレバ發言ヲ許シマシテ、更ニ其ノ事ヲ御聞キ願ヒタイノデスガ……

○小山委員 議事進行ニ付テ、先達私ハ資料ヲ要求シテ置イタノデアリマス、是ハ委員長ニ伺フノデアリマス、議事ノ進行上資料ヲ要求シタニモ拘ラズ、未ダニ其ノ資料ガ出ナイノデアリマス、私ノハ極メテ簡單ナ資料デ遞信省ノ御手許ニアル位ノ資料ダラウト思ツテ居リマスガ、未ダニ御提出ニナリマセス、遞信當局ハ議事ノ進行ヲ非常ニ急イデ居ラレルト思フノデアリマスガ、併シナガラ資料ヲ御提出ニアラスト云フコトハ、議事ノ進行ヲ急イデ居ラレヌヤウニ思ヒマス、此ノ點ヲ能ク御考ヘニナラレテ、若シ資料ノ提出ノ出來ルモノナラバ速ニ提出シテ戴キタイ、委員長カラ御督促ヲ願ヒマス

○小林委員 一寸議事進行ニ付テ、只今ノ問題ハ是ハ海運行政ノ一元化ノ問題ダラウト思ヒマス、此ノコトニ付キマシテハ私モ本會議デ質問ヲシタノデアリマスガ、遞信大臣ノ御答辯洵ニ不満足デアリマス、此ノ

委員會ニ於テ私モ徹底的ニ此ノ問題ノ解決
ニ努力シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデ
アリマスカラ、此ノ問題ニ付キマシテハ先
程ノ御話ノヤウニ關係各省及外地ノ首腦
者ノ出席ヲ求メテ徹底的ニ意向ヲ究明致シ
タイト私ハ考ヘルノデアリマス、デアリマ
スカラ此ノ海運行政ノ一元化竝ニ海運政策
ノ統一ト云フ問題ニ付テハ、是ハ一ツニ纏
メテ此處デヤツテ行ツタラドウカト思フノ
デアリマス、其ノ時ニ皆出席シテ貰ツテヤ
ツテ行ク、ソレマデハ事務的ノ審議ト言ヒ
マスカ、サウ云フ事柄ハ只今カラ質疑ヲ續
ケテ行ツタラ宜イト思ヒマス

○野田委員長 小林君ニ御諮リシマスガ、
先刻來御要求ノ國務大臣、政府委員ガ同時
ニ出テ來ラレナケレバイカスト云フノデス
カ

○小林委員 サウデス、同時ニ來ナケレバ
話ガ分リマセヌ

○野田委員長 國務大臣、政府委員ノ出席
ハ要求致シマスガ、果シテ同時ニ出ラレル
カドウカト云フコトガ分リマセヌカラ、出
來得ルダケサウ云フ風ニナルヤウニ交渉ヲ
致シマス——ソレデハ是カラ質疑ノ繼續ヲ
致シマス——板谷君

○板谷委員 私ハ對支海運ノ國策會社ニ付

テ伺ヒタイノデアリマスルガ、今朝ノ新聞
ニ依リマス、支那航路ニ對スル補助費五
百萬圓ヲ出スト云フコトニナツテ居ルヤウ
デアリマスルガ、此ノ國策會社ヲ御作リニ
ナルニ付テ之ニ包含セラレル所ノ航路乃至
會社ハ如何ナル範圍ニ於テ御作リニナル御
考デアリマスカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマ
ス

○伊勢谷政府委員 曩ニ本會議ニ於キマシ
テ、遞信大臣ヨリ支那航路ニ關シマシテ
ハ、祕密會デ御話申上ゲタイト云フコトヲ
御願シタノデアリマスガ、今ノ御質問ニ對
シマシテハ、祕密會デ御答辯ヲ申上ゲルコ
トニ致シマス

○野田委員長 祕密會トスル時機ハ委員長
ニ御委セテ願ヒマス、ソレハ適當ナ機會ニ
致シマス

○板谷委員 之ニ關聯シタ質問ハ澤山アル
ノデアリマスガ、何レ祕密會ノ御話ヲ聽イ
タ上デ繼續スルコトノ御許ヲ願ヒタイ、ソ
レカラ今日世界ノ競爭場裡ニ立ツテ如何ニ
シテ運賃「コスト」ノ低減ヲ圖ルカト云フコト
ニ付キマシテハ、先ヅ第一ニ優秀船、經濟
的制度ノ徹底ヲ圖ルコト、又船員ノ優秀化、
能率化ト云フコトハ勿論ノコトデアリマス
ガ、恐ラクハ此ノ見地カラ此ノ法案ヲ出サ

レタコトト思フノデアリマス、所デ今日運
賃ヲ安クシ、優秀船ヲ造ルト云フコトニ付
テハ、船價ノ高イト云フコトガ是ガ一ツノ
原因ヲ成シテ居ル、所デ此ノ資材デアアル所
ノ鋼材ガ高イト云フ結果、船價モ高イト云
フ結論ニナルノデアリマスガ、大體現在海
軍省ニ對シテ日本製鐵ガ供給シテ居ル所ノ
鋼材ノ値段ガ御分リニナツテ居リマスカ

○伊勢谷政府委員 日本製鐵ガ海軍省ニ對
シテ供給シテ居リマス鐵ノ値段ニ付キマシ
テハ、能ク判明シテ居リマセヌ

○板谷委員 私ノ聞ク所ニ依レバ、百六十
五圓見當ノヤウニ聞イテ居ルノデアリマス、
御承知ノ通り不況時代ニ於テハ百十圓位ノ
モノガ、現在ニ於テハ高イ値段ハ二百六十
圓位ニモナツタノデアアルガ、併シ政府當局
ノ努力或ハ調整ニ依ツテ現在ニ於テハ二百
三十五圓位ニナツテ居ルノデアリマス、然ル
ニ外國船ト競爭スルニ付キマシテハ、英國
ヲ標準トスレバ現在英國ノ鐵材ガ百六十五
圓デアリマス、相當ニ茲ニ開キガアルノデ
アリマス、ソコデ此ノ度造船事業法ヲ御作
リニナツテ、造船ニ對スル保護ヲスルニ付
テハ、先ヅ第一ニ安イ鐵材ヲ供給セネバナ
ラヌガ、之ニ付テ當局ハドウ云フヤウナ見
解ヲ持ツテ居ラレマスカ

○伊勢谷政府委員 洵ニ御尤ナ御説ト思ヒ
マス、今日船價ノ高イ最モ大キナ原因ハ二
ツアルト思フノデアリマス、其ノ一ツハ只
今御述ノ造船用材料ノ殆下大部分ヲ占メテ
居リマス所ノ鋼材ガ高イト云フコト、第二
ハ御承知ノ通り船舶ノ建造ナルモノハ綜合
工業デアツテ、他ノ幾多ノモノヲ註文シ、
ソレヲ「アッセンブル」シテ造ルト云フ工業デ
アリマスガ、是等ノ補機類ガ非常ニ高イト
云フコトガ第二ノ原因トナルノデゴザイマ
ス、ソコデ此ノ船價ノ低減ヲ圖リマス爲ニハ、
ドウシテモ第一著手シテ鋼材ノ問題ヲ解
決シナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ
今日大體ニ於テ船舶建造ノ爲ニ使用セラレ
マス所ノ鐵材類ハ大體日本ノ鐵生産ノ十一
分ノ一若クハ十二分ノ一程度ヲ使ツテ居ル
狀況ト心得テ居リマス、サウ云フ非常ニ澤
山オモノヲ使ツテ居リマスガ、不景氣ノ場
合ニ於キマシテハ、非常ニ僅少ナ額ニナル
ノデアリマス、造船數量ガ四五萬噸ト云フ
コトニ下ルノデアリマスカラ、隨テ鐵材ノ
需要量ト云フモノハ三四萬噸ニ下ツテシマ
フ、ソコデ此ノ鐵材ノ問題ハ造船ト云フ側
カラ見テ參リマス、左様ニ需要ノ減退シタ
場合ニ於テハ、製鐵業者ハ其ノ設備ヲ運轉
スルコトガ出來ナイト云フコトニナルノデ

アリマスカラ、造船ニ付キマシテモ、製鐵事業ノ旨ク成立ツヤウニ、船造「サイド」カラモ考ヘテ行カナケレバナラス、ソコデ所謂計畫的造船ト云フモノヲ考ヘテ行ク必要ガアルト思フノデアリマス、即チ從來ノ造船ノ狀況ハト申シマス、多イ時ニハ六七十万噸ノ造船ガアリ、少イ時ニハ只今申シマシタヤウニ、五六万噸ト云フ非常ニ大キナ「カーブ」ヲ以テ「フラクチュエー」シテ居ルノデアリマスガ、出來ルダケ其ノ「フラクチュエー」ノ幅ヲ少クシテ、計畫的造船ニ近ヅケタイ、然ルニ計畫的造船ヲ考ヘテ行キマサル場合ニハ、非常ニ障礙ガ澤山アツテ困難ナ仕事デアリマス、其ノ最モ大キナ困難ハ二ツアルト思ヒマス、即チ計畫造船ヲ行フ場合ニ於ケル造船資金ノ調達難ガ第一、第二ハ、其ノ新造船ヲ常ニ採算ノ合フヤウニ運シ得ル方法ヲ考ヘテ行クト云フコト、此ノ二ツノコトガ重要問題トナツテ來ルト思ヒマス、隨ヒマシテ此ノ二ツノ難點ヲ解決スル爲ニハ、一面ニ於テドウシテモ諸外國ガヤツテ居ルヤウニ、法律デ海事金融法ト云フモノヲ確立シテ、造船資金ノ調達ヲ容易ニシナケレバナラス、第二ノ難關ニ對シマシテハ、海運業者ノ組合組織ヲ強化致シマシテ、此ノ經濟界ノ變動ニ處シマシテ、

即チ海運市況ニ應ジテ海運市場ヲ或ル程度マデ調節スル所ノ自治的能力ヲ持タシテ行ク必要ガアル、此ノ二ツノコト以外ニ、マダ政府ノ方針ト致シマシテ、例ヘバ命令航路ノ船舶ノ如キモノハ、船價ノ安イ、造船數量ノ少イ時ニ造ルト云フコトニナレバ、隨テ航路補助金モ少クテ濟ムト云フ結果ニナリマスシ、有ユル「サイド」カラ考ヘテ行カナケレバナラスノデアリマスガ、左様ナ計畫的造船ヲ行フ上ニ於テハ、ドウシテモ組合法、金融法、造船事業法ガ、此三ツノ土臺ヲ必要トスルト考ヘルノデアリマス、諸テ此ノ土臺ノ上ニ立ツテ、出來得ル限り計畫的造船ガ遂行セラレルト云フ方面ニ向ツテ参リマスレバ、鐵ノ需要ニ致シマシテモ、今日マデノヤウナ大幅ヲ以テ「フラクチュエー」スルコトガ少クナツテ参リマス、サウシマスレバ恰度海軍及ビ鐵道省等ガ鐵產業ノ成立ヲモ考ヘナガラ鐵ヲ買ツテ行クト云フ狀態ト揆ヲ一ニスルヤウニナツテ來ル、茲ニ先程仰セノ——私ハ深くハ分ラヌノデアリマスガ、海軍等ニ於テ、鐵材ノ供給ヲ受ケル狀態ト稍、同一ナル基礎ノ上ニ立ツ、斯ウ云フコトニナリマスカラ、鐵材ヲ廉價ニ供給ヲ受ケルト云フコトニ付テノ折衝トカ、交渉トカガ初メテ出來ルト云フコトニ

ナル、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ三ツノ法案ノ有機的連繫ニ依ル所ノ機能ニ依リマシテ、只今御尋ノヤウナ重要點ヲ解決致シテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○板谷委員 造船事業ノ平準化ト云フコトハ洵ニ結構ナコトデ、又ソレデナケレバ鐵材ヲ供給スルニシテモ、或ハ造船事業ヲヤル者ニ付キマシテモ、年中引續イテ仕事ヲシナケレバナラス、隨テソレガ或ル程度マデ安ク上ルト云フ原因ニモナルデアリマセウガ、鐵材ヲ供給シテ居ル所ノ日本製鐵會社ガ、聞ク所ニ依リマス、隨分橫暴ヲ極メテ居ル、先般衆議院ノ豫算分科會ニ於テモ質問ガアリマシタコトヲ速記録見タノデアリマスガ、百二十五圓位デ出來ルモノヲ百七十圓程度デ卸賣シテ居ル、其ノ理由トシテハ日本製鐵ガ若シソレヨリ安ク賣ツタナラバ他ノ諸會社ガ困ル、デアルカラ已ムヲ得ズ其ノ平均ヲ保ツ爲ニ高く賣ツテ居ルト云フヤウナコトヲ言ツテ居ル、御承知ノ通り日本製鐵會社ハ特殊會社デアツテ、相當ノ配當ト、相當ナ社内ノ保留金ヲ取ツテ居ツテ隨分橫暴ヲ極メテ居ルヤウニ思ハレルノデアリマス、今政府委員ノ御話ニ依レバ海軍竝ニ出來ルダケ鐵材ヲ供給シ

タイト云フ御心持ノヤウニ伺ツタノデアリマスガ、造船事業ノ發達或ハ其ノ船舶ノ値段ヲ成ベク低下サセルコトニ付テハ、此ノ資材ノ供給ニ付テ當局ハ出來ルダケノ御配慮ニナラナケレバ、其ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト考ヘルノデアリマスガ、モウ一遍之ニ對スル御答辯ヲ伺ツテ置キマス

○伊勢谷政府委員 造船ニ對スル鐵資材ノ供給ノ圓滑化竝ニ低廉化ト云フコトニ付キマシテハ、此ノ三ツノ法律ニ依リマシテ極力其ノ實現ヲ期シタイト考ヘテ居リマス

○板谷委員 更ニ御伺シタイコトハ海事金融ノ問題デアリマスガ、本年度ハ九千万圓出スト云フコトデアリマスルガ、十六年度マデ二百萬噸ノ船ヲ造ルトスレバ、之ニ對スル金額ガ或ハ七八億近クニ上ルノデヤナイカト思ヒマス、勿論自己資金或ハ其ノ他ノ金融ニ依ツテヤルモノガアルカモ存ジマセウガ、併シナガラ此ノ目的ハ必ズ遂行スルノデアルカラ萬難ヲ排シテモヤルト云フ先般遞信大臣ノ御答辯デアツタノデアリマスガ、明年以後ノ金融ニ付キマシテハ何カ大藏省ト御打合ガ出來テ居リマスカ、此ノ目的ヲ遂行スルニハ、ドウ云フ風ナ決心ヲ持ツテ御當リニナツテ居リマスカ

○伊勢谷政府委員 先達テ申上ゲマシタ通

リニ、海事金融ニ關スル法律ノ制定ハ、我國當面ノ必要トサレテ居リマスル船腹擴充、即チ只今御尋ノ其ノ事柄ヲ遂行スル爲ニ必要ナ次第デゴザイマスルカラ、來年度以降ニ於キマシテモ、其ノ時ノ情勢ニ依リマシテ、既定計畫ノ船腹ヲ擴充スル爲ニ必要トナツテ参リマスル所ノ資金ノ融通ハ之ヲヤツテ行クト云フ政府部内ノ打合デ進行シテ居ル次第デゴザイマス

○板谷委員 更ニ海運組合法案ニ付テ伺ヒタイノデアリマスガ、此ノ法案ヲ見マスルト、此ノ事業ノ目的ノ中ニ「組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設」ト云フコトガ第四條一項ニ掲ゲラレテ居ルノデアリマス、是ハ一體ドウ云フコトヲ指ス御考デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 「組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設」是ハ組合員ノ事業經營上ノ共同ノ利益ヲ目的トスル施設ト云フ意味デゴザイマス、例ヘバ燃料デアルトカ、船用品等ノ共同購入ノ斡旋、ソレカラ海運振興ニ關スル計畫、竝ニ其ノ遂行、海運ノ海外ト進出等ニ寄與貢獻スル施設、左様ナコトヲ包含シテ居ル次第デゴザイマス

○板谷委員 現在ニ於キマシテモ此處ニ掲ゲテアル事業ハ大體ニ於テヤツテ居ルノデアリマスガ、聞ク所ニ依ルト、保證金ヲ二

千圓現金デ取ツテサウシテソレヲ組合員中ノ困ル者ニ貸スト云フヤウナ話ガアルサウデスガ何カ其ノ點ハ御聞キニハナリマセスカ

○伊勢谷政府委員 左様ナ事柄ハ聞イテ居リマセス

○板谷委員 私ハ大體此ノ程度デ質疑ヲ止メテ置キマスガ、今祕密會ヲ開カレテ、對支國策ニ關シテノ御説明ガアツタ後ニ更ニ質問ヲ繼續シタイト思ヒマス、此ノ程度デ打切りマス

○野田委員長 小林房之助君

○小林委員 今回ノ此ノ海運法案ヲ梗概トシテ日本ノ海運ヲ充實シテ東亞ニ於ケル航

權ヲ確立シテ行カナケレバナラスト云フ立場カラ、是等ノ擴張計畫トシテハ、ドウシテモ千噸以上四千噸程度位マデノ小型中型船ヲ主トシテ建造シテ行カナケレバイケナイモノダト思フノデアリマス、此ノ程度ノ中型小型船デアリマシタナラバ、沿海航路ハ言フマデモナク近海航路ニモ恰好ノモノデアツテ、吃水ガ比較的淺イカラ港灣ヲ最大限度ニ利用スルコトガ出來テ貿易上海外進出ノ上ニ最モ適當ナルモノダト考ヘルノデアリマス、ノミナラズ現在英吉利ノ近歐航路ガ振ツテ居ナイト云フコトモ、此ノ中

小型船ノ不足ト云フコトガ相當重大ナル關係ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、外字誌デ此ノ間見タノデアリマス、サウ云フヤウナ譯デ此ノ小型中型船ヲ多數ニ持ツテ居ルト云フコトハ、戰時ノ場合軍需輸送ヲ完クスル上ニ於テ必要ナコトデアツテ、國防上ノ要素ヲ爲シテ居ル所ノモノデアリマス、況ンヤ只今御廻シニナリマシタ統計ヲ見マス、丁度千噸以上カラ四千噸未滿マデノ船齡ハ、十五年以上二十年未滿、二十年以上二十五年未滿、以下ズツト考ヘテ見ルト相當年ヲ皆食ツテ居リマス、此年ヲ食ツテ居ル狀態カラ申シマシテモ、此ノ際特ニ此ノ近海航路ニ必要ナ、又軍事輸送ニ必要ナ中型小型船ヲ此ノ際充實ヲシナケレバ、日本ノ航權ヲ確立シテ行クコトハ非常ニ不安ナモノガアルト考ヘルノデアリマス、ソコデ造船ヲ註文スル所ノ者ハ、勿論時勢ニ從ツテ適當ナ型ノモノヲ註文スルニ違ヒナイノデアリマスカラ、中型小型船ガ經濟上有利デアレバ、中型小型船ヲ註文スル、ソレハ採算上スルノデアルカラ、政府カラ命令サレナクテモ、當業者ハ一番ヨク經濟的ニ物事ヲ取ツテ行ク、併シ同時ニ先程申シタヤウニ政府ハ一旦有事ノ際ニ役立ツ中型小型船ヲ建造スルコトヲ國策トシテ實現シテ行カナケレバ

ナラスノデアリマスガ、今日ドウ云フヤウナ方法デサウ云フヤウニサレルノデアリマスカ、新造計畫ニ對シテ、指導ト云ヒマスカ、或ハ指令ト云ヒマスカ、監督ト云ヒマスカ、ソコニ何等カノ方法ヲ講ジラレル必要ガアルト思フノデアリマス

○伊勢谷政府委員 中小型船ガ非常ニ必要ニナツテ來テ居リマスコトニ付キマシテハ、只今ノ御話ト全ク同感デアリマス、私共ノ計算ニ依リマス、相當大キナ數量ノ中型、小型船ヲ必要トシテ居ル實情デアルト統計ノ上カラ見テ居ルノデアリマス、隨テ現在造船所ニ對スル註文狀況ヲ見マシテモ、十二萬噸ニ垂ントスル左様ナ型ノ船ノ註文ガアル狀況デゴザイマシテ、實ハ計畫ト致シマシテハ、十五萬噸カラ二十萬噸程度ノ左様ナ船ノ建造ヲ急速ニ實現シタイト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、隨テ此ノ方面ニ對スル所ノ建造資金ノ融通、建造材料ノ配給等ニ特ニ意ヲ用ヒマシテ、是ガ實現ヲ圖ル覺悟デ居ル次第デゴザイマス

○小林委員 ソレハ造船事業法ノ第十六條ニ造船委員會ノコトガアリマスガ、造船委員會デサウ云フコトヲ御決メニナツテ、サウシテ註文者ノ方ニ何カ差圖デモ御與ヘニナルコトニナルノデアリマスガ、又造船法

ノ十一條ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶ノ
註文者ニハ助成金ヲ交付スルト云フコトガ
アルノデスガ、是ハドウ云フヤウニナルノ
デスカ

○伊勢谷政府委員 最後ノ御尋ノ助成金ヲ
交付シテ左様ナ計畫ヲ實現スルト云フコト
ニ對シマシテハ、實ハ最初考ヘテ居ツタノ
デアリマスガ、政府部内ニ於テ段々相談致
シマシタ結果、助成金ハ出サズシテ、金融
方法ニ依ツテ之ヲ實現シテ行キタイト云フ
コトニナリマシタカラ、助成金ハ出サナイノ
デゴザイマス、ソレカラ法律ノ上デ、左様
ナ船ヲ急速ニ實現スル爲ニハ、此ノ造船事
業法ノ中ニ造船順位ノ變更ヲ命ジ得ルト云
フヤウナ規定ガアルノデアリマスカラ、之
ヲ直グ様發動シテ行ケバ宜イノデアリマス
ガ、併シ先程申上ゲマシタヤウナ金融ノ方
面ト材料ノ配給方面トデ、サウ云フ法律的
ナ力ヲ用ヒズシテ、行政手段デ實現シ得ル
ト確信シテ居ルノデアリマス

○小林委員 サウシマスト、サウ云フ行政
手段デ小型、中型船ノ建造ヲ促進セシメル
ヤウニナルト致シマシテ、其ノ方法トシテ、
サウ云フ小型船トカ、中型船トカヲ拵ヘタ
イト云フ者ニ對シマシテハ、コノ法律ニヨル
融資以外ニ、何等カ、他ニ融資ニ關シ優先

權下デモ申シマスカ、サウ云フヤウナ優遇
方法デモ講ジラレル御考デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 之ニ付キマシテハ、實
ハ只今仰セノ左様ナ船型ハ、支那事變ニ依
ル東亞ニ於ケル情勢ガ非常ニ變化シテ參リ
マシタ結果、急速ニ必要ニナツテ來タノデ
アリマスルガ、我國ノ海運トシテ考ヘテ見
マスルト、ドウシテモ海外ニ廣ク進出シテ
行クト云フコトガ非常ニ必要デアリマスル
カラ、原則トシマシテ、金融方法ノ建前ト
シテハ四千噸以上ノ船ニ對シテ金融ヲシテ
行クト云フコトガ原則ニナツテ居ルノデゴ
ザイマスガ、併シ今日ノ情勢ヨリ、只今仰セ
ノヤウナ非常時必要ナ事柄ヲ實現スル爲
ニ、從來ノ施設デハ考ヘテ居リマセヌデシ
タ四千噸未滿ノ船ニ對シマシテ、特ニ遞信
大臣ノ認可ヲ受ケタ時ニハ貸付ヲ爲シ得ル
ト云フコトニ致シマシタコトハ、從來ノ施
設ニ較ベマシテ、非常ニ變化シテ居ル點デ
ゴザイマスルガ、斯ウ云フ風ニ金融方法ヲ
擴張致シマシタカラ、今必要トナツテ居ル
事柄ニ對シマシテハ、特ニ意ヲ用ヒマシテ
金融ヲ致ス方針デ居ルノデゴザイマス

○野田委員長 委員長カラ政府委員ニ伺ヒ
タイノデスガ、先程造船事業法ノ第十一條
ニ、小型船ニ對シテハ助成金ヲ交付シナイ

コトニナツテ居ルト云フ御話デシタガ、其
ノ理由ヲ私聽キ漏シタノデスガ、ドウ云フ
譯デ小型船ノ方ハ除カレタノデスカ、説明
ガアツタカナカツタカ、一寸ハツキリシマ
セヌデシタカラ……

○伊勢谷政府委員 是ハ此ノ十一條ニ關係
シテ居ル事柄デハナイノデアリマス、御尋
ノ中小型船ガ今ノ情勢カラ見テ非常ニ必要
デアリ、急速建造スル必要ガアルト云フ所
カラ實ハ本年度ノ追加豫算ニ中小型船ノ建
造助成施設ニ要スル經費ヲ計上致シタイト
云フ積リデ居ツタノデゴザイマス、然ルニ
色々ト關係省間ニ於テ協議ヲ致シマシテ從
來ハ海事金融ノ方デハ左様ナ小サナ船ニハ
金融ハ致サスト云フノヲ、今度ノ法律ノ制
定ニ當リマシテ、之ヲ大臣ガ必要ト認メル
時ニハ中小型船ノ方面マデ擴張スルト云フ
コトニ致シマシテ、助成金ハ止メテ此ノ金
融ノ方デサウ云フコトヲ實現スル、斯ウ云
フ方針ニナツタト申上ゲタノデアリマス

○野田委員長 ソレカラ前ニ十五萬噸位ハ
急ニ必要トスルト云フ御話デスガ、十五萬
噸ト云フコトガアツタヤウデスガ……

○伊勢谷政府委員 左様デゴザイマス

○小林委員 日本ノ海運ノ海外發展ノ上カ
ラ言ツテモ海上制覇ノ必要性カラ言ツテモ

大型船ガ同時ニ又必要デアルト云フコトハ
言フマデモナイノデアリマス、併シナガラ
大型船ニ付テハ今マデニ於テ大體整理ガ出
來テ居ルノデアリマス、同時ニ或ル程度ノ
充實ガ出來テ居ルト——見方ニモ依リマス
ガ、言ツテモ宜イデハナイカ、多々益々辨
ズルト云フコトハ必要デハアリマスガ、
併シ今日ノ色々ノ狀態カラ見テソコ
マデ手ガ伸ビナイ、ダカラ中小型船
ノ方ヲヤツテ行クト云フコトガ必要デア
リマス、ソレニ對シテハ行政處置ニ依ツテ
何等カノ方法ヲ講ズルト云フコトデアリマ
スガ、是ハドウシテモ一ツノ優先權ヲ認メ
テヤル、或ハ何等カノ優遇ノ方法ヲ講ジテ
此ノ中小型船ノ建造方ヲ確實ニヤツテ行ク
ト云フ必要ガアラウト思フノデアリマス、
ソレカラ造船ニ對シテ融資ヲスルト云フ目
的ハ今申サウニ日本海運ノ健全ナル發達ヲ
圖ツテ行クト云フコトニナルノデアリマスガ、
併シ其ノ爲ニ船ヲ註文スルト云フ以上ハ現實
ニ海運事業ヲ經營スルモノガ船ノ建造註文
ヲシナケレバナナイ、ソレガ爲ニ融資ノ
必要ガアル、併シ此ノ融資ト云フモノハ唯
單ニ金ヲ借りルトカ貸ストカ云フコトデナ
クシテ、ソコニ或ル程度ノ補給ヲ與ヘルノ
デアリマスカラ、是ハ助成デハナイカモ知

レヌガ、或ル一種ノ助成ト言フテモ然ルベキモノデアラカラ、サウ云フ意味ノ融資ヲ與ヘル以上ハ、其ノ融資ニ依ツテ船ヲ註文シタモノハ現實ニ海運事業ヲ營ンデ行クモノデナケレバナラナイ、然ルニ若シモサウ云フ海運事業ヲ營ムンデヤナイ、唯、今船ヲ註文シタラバ儲カル、註文シタイト云フ權利ヲ他人ニ讓ツテ其ノ權利金ヲ儲ケル、或ハ造船中ニ其ノ船ヲ他ニ讓リ渡シテ差金ヲ利得スル、斯ウ云フヤウナ差金稼ギノ目的デ造船ヲスルモノニ對シテハ私ハ融資ノ必要ハ全然ナイト考ヘルノデアリマス、サウ云フヤウナ船價ノ値上リヲ利用シテ建造中ニ利得シヨウ、而モソレガ政府ノ保護ニ依ル融資ヲ使ツテヤツテ行カウト云フモノニ對シテハ相當ノ取締ヲシテ行カナケレバナラスト思フノデアリマスガ、之ニ對スル政府ハドウ云フ處置ヲ御執リニナルノデアリマスカ

○伊勢谷政府委員 當局ト致シマシテモ全く左様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、此ノ借入ノ申込ニ付キマシテハ、一々内容ヲ審査致シマシテ、ソレガ貸付ニ付キマシテハ銀行ニ對シマシテ認可ヲ與ヘルト云フ方法ニ依ツテ實現シテ行ク積リデゴザイマス、尙ホ又此ノ金融ニ依リマシテ出來マシタ所ノ

船舶ニ對シマシテハ、一定ノ條件ヲ付ケマシテ、賣買讓渡ト云フモノハ融資ノ契約ニ依リマシテ之ヲ禁止スル方針デゴザイマス

○小林委員 一定ノ條件ヲ付ケテ融資ニ依ル船舶ノ賣買ヲ禁止スルト云フコトデアリマスガ、ソレハ融資ニ依ツテ建造シタ船舶ハ例ヘバ十年、十五年經タナケレバ讓渡スコトガ出來ナイト云フヤウナ方法ヲ御執リニナルノデアリマスガ、其ノ期限ハ私ハ成ベク長イ方ガ宜イト思フ、丁度命令航路ニ對シテ補助金ヲ與ヘテ居ル船ニ對シテハ其ノ讓渡ヲスル時ハ、監督官廳ノ認可ヲ受ケナケレバ出來ナイト云フ體カ規定ガアツタヤウニ思ヒマスガ、ソレト同ジヤウニ此ノ規則ノ中ニ融資ニ依ツテ建造シタル船舶ハ十五箇年間他ニ讓渡スルコトヲ得ズト云フヤウナ規定ヲ御設ケニナルコトガ必要ナノデハナイノデアリマスガ、或ハ又サウ云フ規定ヲ御設ケニナサラナイナラバ、此ノ融資法ノ第三條ニ依ル所ノ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルベキ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムト云フ場合ニ、サウ云フヤウナ取締ノ意味ヲ加味シタ規定デモ御設ケニナルノデアリマスガ、何レニシテモ茲ニ此ノ國策ヲ遂行シテ行カウト云フ時ニ差金稼ギノ者ニ此ノ制度ヲ利用セシムルコトハ出來ナイ、其ノ

點ハ明確ニセナケレバイケナイト思ヒマス

○伊勢谷政府委員 此ノ金融法ノ中ニ讓渡禁止ノ規定ヲ設ケマスルコトハ海運業者ノ經營狀態ノ變化ト云フ已ムヲ得ザル場合モアリマスシ、狀況ノ變化モアリマスカラ、嚴ニ失スルト考ヘラレルノデアリマス、而シテ斯ルコトハ融資契約ノ中ニ規定スルコトニ依リマシテ、其ノ目的ヲ實現致シ得ルト考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ又此ノ金融ヲ受ケ得ルモノノ範圍ヲ勅令ニ現實ニ海運事業ヲ經營スルモノニ限ルト、斯様ニ書キマセヌデモ、ソレハ一々詳細ニ調査ヲ致スノデアリマスカラ日本船舶ヲ所有シ得ル者、斯ウ云フヤウニ書クコトニ依リマシテ弊害ヲ矯正シ得ルト考ヘテ居ル次第デアリマス

○小林委員 融資契約ト云フ御話デスガ、融資契約ト云フノハドウ云フヤウナコトヲ契約セシムルト云フ御考デスカ

○伊勢谷政府委員 是ハ銀行カラ海運業者ガ金ノ融通ヲ受ケルノデゴザイマスカラ、其ノ銀行ト海運業者トノ間ニ出來マスル貸借契約デゴザイマス、此ノ中ニ此ノ金融法ニ依リマシテ、ドウシテモ金ヲ貸ス金融機關ハ建造セラレル船舶ニ第一順位ニ抵當權ヲ設定シナケレバナラナイ、ソレガ擔保ニ

ナツテ居ル譯デアリマスカラ、是ハ許可ヲ受ケナケレバ他人ニ讓渡スルコトハ出來ナイ、而シテ銀行ガ左様ナ物ヲ有シマスル場合ニ於キマシテハ、監督官廳ノ許可ヲ受ケナケレバナラナイ、斯様ニナリマスカラ、ソレデ十分デアルト考ヘテ居リマス

○小林委員 私ハマダ質問シタインデアリマスガ、先程モ申シマシタヤウニ海運行政ノ統一、海運政策ノ一元化ト云フ立場カラ管船局ノ擴大強化ト云フコトモ此ノ間本會議デ質問シタノデスガ、ソレニ對スル遞信大臣ノ答辯ハ不満足デアリマスシ、ソレカラ更ニソレヲ進メテ行キマス、ドウシテモ内外地ヲ通ズル行政ノ一元化ト云フコトニ論及ヲシテ行カナケレバ相成リマセヌノデ、ソレニハ朝鮮總督府、關東州、北支中支關係ト云フヤウナ方面ノ首腦者ノ出席ヲ先程要求シテ置イタノデアリマスガ、ソレ等ノ人ト遞信大臣文部大臣厚生大臣御同席ノ上デ此ノ問題ヲ論及シテ行キタイト思フノデアリマス、サウシテソコニ徹底的一元化ノ確立ヲ期待致シタイト思フノデアリマスガ、其ノ時マダ質問ヲ保留致シタイト思ヒマス、同時ニ其ノ質問ヲ致ス前ニ是モ本會議デ質問ヲ致シマシタ支那ニ對スル海運國策會社ノ問題、是ハ秘密會デナケレバ

御話が出来ナイト云フコトデアリマスカラ、
秘密會デ其ノ御話ヲ承ツテ、國策會社ノ包
括航路ノ事柄ヲ聽キマスレバ、其ノ内容ニ
依ツテ更ニ一元化ノ問題ニモ論及シタイト
思フノデアリマス、先程カラノ様子デハ大
分其ノ問題ニ付テ發言スル方モアルト思ヒ
マスカラ、一元化ノ問題ヲ取扱フ前ニ、支
那ニ對スル海運國策會社ノ問題ヲ先ニ取扱
ツテ戴キタイト思フノデアリマス、私ハ質
問ヲ保留シテ、今日ハ是デ打切りマス

○野田委員長 小林君ニ御諮リ致シマス
ガ、他ノ國務大臣等モ成ベク同時ニ出席ヲ
要求致シマスガ、果シテ其ノ通り運ビ得ル
ヤ否ハ疑問デアリマス、成ベクサウ云フ
ヤウニシテ貫ヒタイト考ヘテ居リマスガ、
併シ遞信大臣ノ答辯ニ満足デアルト云フ
コトデアレバ、此ノ際遞信大臣ガ御出デニ
ナツテ居リマスカラ、不満足ノ點ヲ進ンデ
御聽キニナツテ、ソレカラ又他ノ大臣ニ御
聽キニナルコトニシタラドウデアリマスガ

○小林委員 御尤デアリマス、併シナガラ
私ハ遞信大臣ノ御立場カラ申シマスレバ、
此ノ間本會議ニ於ケル私ノ質問ニ對スル御
答辯竝ニ一昨日ノ此ノ委員會ニ於ケル御答
辯以上ニハ私ハ出デナイト思フ、國內行政
ニ致シマシテモ、海員養成ノ學校ハ文部省

ノ關係、海員ノ保險關係ハ厚生省ト云フヤ
ウナ、サウ云フ行政ヲ統一スルト云フコト
モ重大ナ問題デアル、ノミナラズ、外地ニ
於キマシテハ朝鮮總督府ノ監督權モ關係シ
テ來ルデアリマセウ、關東洲ニ於テハ對滿
事務局、北支及ビ中支ノ方面ニ於キマシテ
ハ、興亞院ノ關係モ起ツテ來ルノデアリマ
スカラ、今此處遞信大臣御一人ヲ追究ス
ルト云フコトハ遞信大臣ノ御立場カラ云ウ
テモ御困リデアラウト思ヒマス、此處デ申
上ゲルコトハ寧ロ遞信大臣ヲ苦シメルコト
ニナル、ダカラ關係方面ノ首腦者ヲ此處ニ
同席シテ貫ツテ其ノ上デ申上ゲルコトガ海
運行政ノ統一ヲ期スル上ニ於テ遞信大臣ノ
立場ヲ有利ニ導クモノダト考ヘルノデアリ
マスカラ、其ノ意味デ申上ゲテ居ルノデア
リマス

○野田委員長 岡崎君
○岡崎委員 私ハ極ク簡單ニ御伺シタイト
思フノデスガ、政府ノ所謂計畫造船、ソレ
ガ十七年度ニ於テ二百萬噸ノ計畫ト云フコ
トハ何處ヲ一體目標ニシテ御ヤリニナツタ
ノデスカ、御同致シタイ

○伊勢谷政府委員 先日申シマシタノハ一
千噸以上ノ船舶ガ十七年度ニ於テ七百五十
萬噸ニ達スルヤウニ船腹ノ擴充ヲ行ツテ行

キタイ、斯様ナコトヲ申上ゲテ居ルノデア
リマス
○岡崎委員 私ガ聽クノハ造船ノ目標デス、
謂ハバ英國ニ對スルトカ、或ハ國內ノ情勢
デサウナルトカ、或ハサウシナケレバナラ
ヌトカ、其ノ考ヘ方ガ何處カラ出テ來マス
カ
○伊勢谷政府委員 ソレハ生産力ノ擴充ニ
依リマスル所ノ海上物資ノ増加デアリマス
トカ、國際貸借ノ改善ノ必要ニ依ル海外進
出デアルトカ、或ハ國防上ノ必要デアルト
カ各種ノ方面ヨリ考ヘマシテ左様ナ結果ニ
ナルカト思ヒマス

○岡崎委員 私ハ斯ウ云フ計畫造船ト云フ
モノハ、國內的ニハ結構デアルト思フケレ
ドモ、船舶ト云フモノハ國際的ノモノデア
リマシテ、日本ガ勝手ニ造ツタ所デサウ行
クモノデナイト思フ、例ヘバ日本デ船ヲ造
リマシテモ、其ノ運ブ所ノ荷物ガ日本ノ物
ダケ運ブナラ宜シイノデスガ、外國ノ物ヲ
運ブト云フ場合ニ於テ、今日ノ國際情勢ニ
於テ果シテソレダケノ船ヲ造ツテ宜イカド
ウカト云フコトヲ疑フノデアリマス、又日
本デソレダケノ計畫造船ヲヤリマス、英
吉利デモサウ云フ計畫造船ヲヤルト云フコ
トニナリマス、ソレデアルカラ私ハ斯ウ云

フ計畫造船ト云フヤウナコトハ、寧ロ御發
表ニナラヌ方ガ宜イノデヤナイト思フノ
デアリマス、所謂貨物ノ狀態トカサウ云
フモノヲ考ヘテ、自然ニ造ツテ行クト云フ
方法ガ宜イノデハナイカ、所謂國際的ノモ
ノハサウ計畫シマシテモサウハ行カナイト思
ヒマス、ソコデ斯ウ云フヤウナ計畫的ノモ
ノヲ世界ニ發表セラレルト云フコトハ、寧
ロ外交的ニ見デイケナイノデハナイカト思
シテモ、果シテ是ダケノ計畫造船ガ出來ル
カドウカト云フコトハ疑問デアルト思フ、
ニモ拘ラズ是ダケハヤルノダト云フコトヲ
世界ニ發表スルト云フコトハ、非常ニ拙イ
コトデアルト思フノデアリマスガ、サウ云
フ點ニ付テドウ御考ニナツテ居リマスガ

○伊勢谷政府委員 私ノ御答辯申上ゲテ居
リマスノハ、世界ニ向ツテ發表セント致シ
テ居ルノデゴザイマセヌノデ、御質問ニ對
シマシテ當局ニ於テ考慮致シテ居ルコトヲ
申上ゲテ居ル次第デゴザイマス、御諒承置
ヲ願ヒマス、尙ホ船腹ノ擴充ト云フコトハ、
其ノ時ノ經濟情勢ニ依ルコトガ非常ニ多イ
ノデアリマス、自然ニ委シタ方ガ宜イト云
フコトハ、確ニ一面ノ理窟ガアルコトヲ考
ヘラレルノデアリマス、然ルニ例ヘバ諸威

ノ如キ國ヲ取ツテ申上ゲテ見マス、アノ小國ニシテ殆ド日本ニ匹敵スル所ノ船腹ヲ擁シテ而モ全世界ニ向ツテ海運業ヲ經營シ唯一ノ立國ノ基ヲ成シテ居ルノデゴザイマス、之ヲ我國ニ取ツテ見マスルト、我國ハ、其ノ國民性ガ海洋ニ適シテ居ルバカリデナシニ、最モ海運事業ヲ發達スルニ有利ナ地位ニアルト考ヘマス、東洋諸國ノ荷物ニ致シマシテモ、現在日本船ガ運シデ居リマスル數量ト云フモノハ非常ニ僅少デアリマス、故ニ我國ニシテ最モ海運業ヲ發達セシメテ、最モ經濟的ナ運賃ニ依ツテ良キ「サービス」ヲ提供スルト云フコトニナリマスナラバ、是ハ世界ノドノ國ト對抗スルト云フ風ナサウ云フ考ヘ方ヲ以テ考フベキモノニアラズシテ、寧ロ我國海運ガ世界ノ經濟ノ發達振興ニ寄與貢獻スルモノデアアル、斯様ニ考ヘネバナラスモノデアルト思フノデアリマス、左様ナ見地カラ考ヘマシテ、毫モ支障ハナイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○岡崎委員 世界ニ向ツテ發表シタノデハナイト云フコトデアリマスケレドモ、實際ハ新聞紙上ニ發表サレテ居リマシテ、是ハ世界ニ發表シタト同様ナ效果ヲ持ツモノト思フノデアリマス、又諸威ノヤウニ日本ノ船モ世界ニ向ツテ運航スルト云フコトハ非常

ニ可能ノコトデアルト思フノデアリマスガ、現在ニ於テハサウ行カナイト思フノデアリマス、固ヨリ船價モ高イノデアリマスルシ、ソレカラ國際的情勢ト云フモノガ殆ド日本ヲ「ノックアウト」シテ居ルヤウナ狀態デアリマシテ、中々サウ日本ダケデ考ヘテ行クヤウナ譯ニハ行カナイト思フ、兎ニ角商賣デアリマシテ、相手ハ外國デアリマスカラ……其ノ點ハ其ノ程度ニ致シマシテ、先程問題ニナリマシタガ、小型船舶ガドウシテ今日少クナツタカト云フコトヲ御聽スルノデアリマス

○伊勢谷政府委員 中小型船舶ガ非常ニ必要ニナツテ來マシタ最モ大イナル原因ハ、支那事變ニ依ル極東情勢ノ變化ト云フコトガ最モ大ナル原因ダト觀察致シテ居リマス、即チ此ノ支那事變ノ結果銃後ノ物資ノ移動ガ非常ニ激シクナリ、此ノ爲ニ中小型船舶ノ需要ガ増大シテ參リ、又事變ノ結果ニ依リマシテ支那ニ對シテ我國ノ海運ガ伸ビテ參リマスルコト、即チサウ云フ方面ノ物資ノ輸送ヲ擔任スル、斯ウ云フ方面ニ於キマシテモ其ノ地理的環境カラ見マシテ、左様ナ船舶ガ非常ニ其ノ必要性ヲ増シテ參ツタ爲デアルト考ヘテ居リマス

○岡崎委員 私ハ無論小型船舶ノ必要ト云フ

コトハ今日益々迫ツテ來マシタケレドモ、寧ロ小型船舶ガ少クナツタノデハナイカト思フノデアリマス、是ハ此ノ前ノ所謂船舶改善助成金ニ依リマシテ、小サイ船舶ヲ皆壞シテ大キナ船ヲ造ツタト云フヤウナ傾向ガアルノデアリマスガ、是ハドウデアリマセウカ

○伊勢谷政府委員 只今仰セノヤウナ點モ確ニアリマス、併シ御承知ノ通り船舶改善助成施設ニ伴フ所ノ解體船ナルモノハ、全部ハ未ダ之ヲ解體シテ居ラナイ狀況ニアルノデゴザイマス、左様ナ仰セノヤウナコトモ原因ノ一ツニナツテ居ルト云フコトハ否ミ得ナイト存ジマス

○岡崎委員 要スルニ政府ノオヤリニナツテ居ル所ヲ見マスルト、調査ト云フモノガ非常ニ不十分デナイカト私ハ思フノデアリマス、是ハ獨リ遞信省バカリデナク、總テノ方面ニ於テ調査ガ行届イテ居ナイト云フコトガ一ツノ原因デアルト思フノデアリマス、物資ノ統制ヲヤルニ當リマシテモ調査ガ行届イテ居リマセスカラ、ソコニ色々支障ガ出テ來ルト思フ、ソレデ調査ノ上ニ立ツテ總テノコトヲ判斷サレテ、其ノ方向ニ向ツテ行クコトガ宜イト思フノデアリマス、此ノ小型船舶ガ今日遽ニ必要ニナツタト

云フコトモ、或ハ今日マデノ調査ガ完全デナカツタノデハナカラウカト思フノデアリマス、サウスレバ寧ロ去年或ハ其ノ前ニ於テ今日ノ小型船舶ノ少ナイト云フコトガモウハツキリシテ居ルト思フノデアリマス、今日慌テテ小型船舶ノ助成ヲシナケレバナラスト云フ、又此ノ前ノヤウナ御話ニ依リマスト助成金ニ依ツテ小型船舶ヲ造ルト云フ御考デアリマシタガ、サウ云フ方ガ寧ロ私ハ適當デアルト思フノデアリマス、今日融資ニ依ツテヤルト云フヤウナコトハ寧ロ非常ニ困難デハナイカト思フ、銀行ト小型船舶ヲ造ル會社トノ關係ヲ見マシテモ寧ロ是ハ困難デアルト思フノデアリマス、其ノ邊ハドウ御考ニナリマセウカ

○伊勢谷政府委員 今日我が海運ノ持ツテ居リマスル中小型船舶ガ噸數ニ於テ少ナイト云フコトニ付キマシテハ、改善助成施設ト云フモノガ或ル程度其ノ原因ノ一ツヲ成シテ居ルト云フコトハ御説ノ通りカト考ヘルノデアリマス、今日ノ支那事變ノ勃發竝ニ之ニ伴ヒマスル海上輸送上ノ變化等ハ、十分調査致シマスニシテモ非常ニ困難ナコトデアルト考ヘルノデアリマスガ、今後ニ於キマシテハ左様ナ點ニ付キマシテハ十分注意ヲ致シマシテ調査ヲ致ス考デゴザイマス、而

シテ又此ノ建造目的ヲ達スル爲ニ何レノ方法ガ宜イカト云フコトハ、是ハ意見ノアル所デアリマスルガ、當局トシマシテハ、只今申上ゲマシタ方法ニ依リマシテ、漸次其ノ目的ヲ達成シ得ルモノト考ヘテ居リマス

○岡崎委員 此ノ船會社ガ銀行ヲ通シテ融資ヲ受ケルト云フコトハ、銀行側ニ於テハ非常ナ危険ガ伴フノデハナイカト考ヘマス、何故ナラバ、船會社ノ經營ト云フモノニ付テ銀行側ハ理解ガナイト思フ、嘗テ所謂十五銀行問題モ起キタノデアリマスガ、結局ハ國家ガ其ノ負擔ヲスルト云フ狀態ニナリハセヌカ、或ル程度ノ助成ヲスルノデアリマスガ、大ナル部分ヲ國家ガ負擔スルヤウナ結果ニナリハセヌカ、英國ノ如キハ船會社ノ經營者ガ多クハ「バンカー」ニナツテ居リマス、「バンカー」ト船會社ヲ同ジ人ガヤツテ居ル場合ガ多イノデアリマス、御承知ノ通り英國ニ於キマシテハ船會社ガ非常ニ發達シマシテ、ソレ等ノ有力ナル人ガ銀行ヲ作り或ハ「バンカー」ニナルト云フヤウナ傾向ニナツテ居リマスカラ、銀行カラ會社ニ融資致シマシテモ何等危険ハ感じナイノデアリマスガ、日本ノ如ク銀行家ハ銀行家、船會社ノ「オペレーター」ハ「オペレーター」ト云フヤウナ狀態デアリマシテハ、ソコニ

研究ト理解トガ足ラナイカラ非常ナ危険ガ伴フノデハナイカト思フノデアリマス、其ノ點ニ付テハ如何デセウカ

○伊勢谷政府委員 金融機關ガ船舶金融ニ對シマシテ理解ヲ持ツコトガ困難デアルト云フコトハ御話ノ通りダト存ジマス、隨ヒマシテ此ノ法律案ニ於キマシテハ、船舶ニ對スル金融ガ不圓滑デアルト云フ缺點ヲ除クガ爲ニ國ノ損失補償ト云フモノヲ設ケマシテ、金融機關ト致シマシテ安心シテ金融ヲ爲シ得ルヤウ致シテ居ルノデゴザイマス、而シテ又船舶金融ハ危険ナモノデアアルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、我國ノ船舶金融補償ハ昭和五年ニ始メタノデアリマスカ、今日マデノ情勢ヲ見テ參リマス、其ノ間御承知ノ通り昭和六年、七年當時非常ナル不況ニ際會シテ居ルノデゴザイマスガ、未ダ會テ政府ノ損失補償ヲ必要トスルヤウナ即チ銀行ガ其ノ融資ヲ回收出來ナイト云フヤウナ事態ニブツカツテハ居ラナイノデゴザイマス、而シテ又今後ニ於キマシテハ幾多ノ變遷ガアルト思ハレルノデアリマス、併シナガラ海運界ノ情勢ハ是モ短イ眼で見マスルト、非常ニ危険ダト云フ場合モアルノデアリマスガ、十年、十五年ト云フ長イ眼デ見マスルト、收益率ハ高クハナイガ、非

常ニ安全ナルモノデアリマシテ、現ニ海事金融ヲ致ス銀行ニシテモ近年ニ至ツテ海事金融ガ危険ダナイト云フコトガ分リ始メタト云フ位デアリマス、而シテ又外國ノ海事金融ニ付キマシテハ、御話ノヤウナ點ハアルト思フノデアリマスガ、併シ何レノ海運ニ於キマシテモ、海事金融法ヲ持タザル國ハナイト言ツテ宜イ位デアリマシテ、而モソレ等ノ國ニ於キマシテ、國ガ非常ナル損失ヲ負擔シタト云フ實例ハナイト聞イテ居ルノデアリマス、故ニ國ガ多大ノ損失ヲ負擔シナケレバナラスト云フ場合ハ、先ヅ餘リナイト斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマスカ

○岡崎委員 例ノ十五銀行ノ問題デアリマスカ、アレハヤハリ造船ニ融資シタノガ原因ダト思ツテ居リマスガ、如何デアリマセウカ

○伊勢谷政府委員 十五銀行ノ問題ニ付キマシテハ、私共ヨリ御答申上ゲ兼ネルノデアリマスガ、船舶ノ建造ニ對スル金融ニ主トシテ基因スルモノデハナイト云フコトダケハ申上ゲレルト存ジマス

○岡崎委員 ソレカラ此ノ計畫造船ヲヤリマスル場合ニ於テ、先程モ同僚カラ御問ニナツタヤウデアリマスガ、ハツキリシマセヌノデ再ビ御伺致シマス、ドウ云フ方法デ

ソレダケノ計畫造船ヲオヤリニナルノデアリマスガ、ソレハ船會社ニ對シテ命令デモスルノカ、或ハ勸告デモスルノデアリマスカ、若シ船會社ニ於テ造船ヲ必要トシナイト云フ時代ニハドウナルノデアリマスカ

○伊勢谷政府委員 船舶ノ擴充ヲ遂行スルニ當リマシテ海運業者ニ對シテ、船舶ノ建造ヲ命令致シマスルコトハ適當デナイト考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ海運業者ヲシテ、船舶ノ建造計畫ト海運市場ノ情勢トヲ睨ミ合セテ採算ニ乗ルト云フ狀態ノ下ニ於テ建造セシムルコトガ適當デアルト思ヒマスノデ、左様ナ方針ヲ以テ進ム考デアリマスカ

○岡崎委員 此ハ融資問題ニ付テ是デ打切リマスガ、海運組合法案ニ付テハ、留保致シタイト思ヒマス、是ハ委員ガ代ツテヤイタイト考ヘマス

○野田委員長 此ノ際岡崎君ノ御質疑ニ牽聯シテ遞信大臣ニ伺ツテ置キタイ、融資法案ノ第一條ニ「船舶建造資金ノ融通ヲ爲ス金融機關」トアリマスガ、此ノ金融機關ノ範圍ハドウ云フコトニナリマセウカ、此ノ點ハ政府委員デ宜シウゴザイマス

○伊勢谷政府委員 金融機關ノ範圍ハ勅令ヲ以テ定メル積リデゴザイマシテ、大藏省

○野田委員長 此ノ際岡崎君ノ御質疑ニ牽聯シテ遞信大臣ニ伺ツテ置キタイ、融資法案ノ第一條ニ「船舶建造資金ノ融通ヲ爲ス金融機關」トアリマスガ、此ノ金融機關ノ範圍ハドウ云フコトニナリマセウカ、此ノ點ハ政府委員デ宜シウゴザイマス

○伊勢谷政府委員 金融機關ノ範圍ハ勅令ヲ以テ定メル積リデゴザイマシテ、大藏省

○伊勢谷政府委員 金融機關ノ範圍ハ勅令ヲ以テ定メル積リデゴザイマシテ、大藏省

トモ協議ヲ進メツアルノデアリマスガ、先ヅ第一ニ銀行、是ハ如何ナル範圍マデノモノニスルカ、只今研究ヲ致シテ居リマス、第二ニハ信託會社、第三ニハ保險會社ヲ之ニ加ヘタイト考ヘテ、討究シテ居ル次第デアリマス

○野田委員長 ソコデ遞信大臣ニ御伺シタイノデスガ、只今政府委員ノ御答辯ノヤウニ銀行、信託會社、保險會社ト云フト、財源ハ相當シツカリシテ居ルコトハ勿論デアリマスガ、先程伊勢谷政府委員ノ御説明モアリマシタ通りニ海運ニ關スルコトハ長イ眼ヲ以テ見ルト、損失ヲ償フテ平均シタ利益ヲ得ルコトガ出來ルガ、若シ金融業者ガ海運事業ニ十分ノ理解ヲ持タザル爲ニ、一寸不況ニナツタト云フト直キニ回收ヲ迫ルト云フヤウナ狀態デハ、折角ノ事業ヲ潰シテシマフコトニナルト思フノデスガ、保險會社ヤ信託會社、或ハ普通ノ銀行デハサウ云フコトノ知識ト云フモノガ甚ダ乏シイト見ナケレバナラス、私ハ海運ノコトハ素人デ分リマセスガ、聞ク所ニ依ルト英吉利ナドハ海運ニ對スル金融ガ非常ニ簡便デアツテ、國民モ能ク理解ガアルガ、銀行モ十分ノ理解ガアツテ、恰モ日本ニ於テ有價證券ニ依ツテ金融ヲスルガ如ク滑カニ行ツテ

居ルト云フコトヲ聞クノデスガ、日本デハ中々サウ云フ譯ニハマダイカスト思ヒマス、建造資金ト云フモノモ初年度ガ九千万圓デアリ、爾後所要ノ金額ハ頗ル大キナモノニナリマス、海運事業一般ニ對シテノ金ノ動キト云フモノハ相當多額デアリマスカラ、海運國策ト云フ國策中ノ國策ヲ遂行スルニ付テハ、何トシデモ金融ヲ圓滑ニスル必要ガアル、ソレニ付テハ海事ニ關スル特別ノ金融機關デモ作ル御考ハナイイモデアリマセウカ、御所見ヲ伺ツテ置キマス

○鹽野國務大臣 造船ノ金融ニ付キマシテハ多額ノ金ヲ要スルモノデアリマスカラ、其ノ金融機關ハ相當強大ナモノデナケレバナラナイノデアリマス、今後ニ於キマシテハ其ノ金融機關ノ範圍ヲ擴大シマシテ、先刻政府委員ガ御答シタヤウナ次第デ、信託會社或ハ保險會社ヲモ入レタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、而シテ船舶ニ對スル融資ハドウシテモ長期間ノ契約ヲスルヤウニシナケレバナラスノデアリマシテ、政府ト致シマシテモ、其ノ融資ヲ十五年ノ年賦償還ニスルヤウニ、法第四條ニ於テ決メテアルヤウナ次第デアリマス、相當滑カニ融資ガ出來ルコトト考ヘテ居ル次第デアリマス

○野田委員長 遞信大臣ハ私ノ間ノ趣旨ガ十分御分リニナツテ居ラスヤウニ見エマスガ、私ノ申スノハ、信託會社トカ保險會社トカ云フモノハ財力ハ強イケレドモ、海運事業ニ付テ理解ガナイダラウ、ソレデ從來ハ不動産ニ對シテハ元ノ農工銀行或ハ興業銀行ト云フヤウナ、ソレノ商業、工業等ニ對スル銀行トシテノ專門ノ使命ヲ持ツタ金融機關ガアツタノデスガ、ソレト同ジヤウニ海運事業ニ付テハ特別ノ金融機關ヲ設ケル必要ハナイカ、斯ウ云フコトヲ聽クノデス、即チ御承知ノ通り歐洲戰爭ノ後ニハ大反動ガ來テ、大キナ何億ト云フ所謂船成金ト云フヤウナ人モ倒産ヲスル者ガ出來テ來タ、ケレドモソレハ理解ナシニ、少シ不景氣ニナツタカラ直チニ回收スルト云フヤウナコトデ潰シテシマフノデハナイカト實ハ考ヘラレル、私ノ言フノハ力ノ問題デハナクシテ、其ノ事業ニ對スル理解ヲ銀行ガ持ツテ居ルコトガ金融ヲ滑カニスル所以デアルト思フ、事業ヲ保護獎勵スルニハソレガナケレバイカスダラウト思フ、丁度山ノ事業デ申シマス、鑛山ト云フモノハ從來海運ト同ジヤウニ見ラレテ居ツタカモ知レマセスケレドモ、兎角危險ダト見ラレテ居ツタ、ソレデ一般ノ銀行デハ鑛山ト云フモノ

ニ向ツテハ金融ト云フモノヲ容易ニヤラナイ、サウ云フコトカラ產金振興會社ト云フヤウナモノノ金融機關ト云フヤウナモノモ出來ル話ガアツタノデスガ、サウ云フコトヲ考ヘテ見ルト、素人ノ私共ノ考デスケレドモ、ドウシテモ此ノ海運事業ノ發達ヲ圖ルコトガ國策中ノ國策デアツテ、是ガ一番大キナ問題デアルト思フノデアツテ、ソレニ付テハ其ノ事業ニ對シテ理解ト認識ノアル機關ヲ作ル必要ハナイカ、サウ云フヤウナ御考ハナイカト云フコトヲ伺フノデアリマス、今申ス信託會社ヤ保險會社ガ加ヘテ期限ガ長イカラト云フダケデハ満足ガ出來ス、斯様ニ思フノデ、其ノ國策ノ大方針ニ付テ所見ヲ伺フノデアリマス

○鹽野國務大臣 只今ノ所特別ノ金融機關ヲ作ル考ハナイノデアリマス、相當政府モ補給金ヲ出シテ居リマスカラ、途中デ返金ヲ迫ルト云フヤウナコトハナカラウト考ヘテ居リマス

○板谷委員 一寸關聯事項ニ付テ伺ヒタイト思ヒマスガ、此ノ前大船ニ對スル所ノ融資ニ付テモ興業銀行、保險會社、信託會社ト云フコトニナツテ居ツタノデアリマスガ、殆ド全部ハ興業銀行ガ扱ツテ居ル、今度ハ今ノ御説明ニ依レバヤハリ普通銀行、保

險會社或ハ信託會社ト云フモノニ扱ハセル、斯ウ云フコトデアリマスガ、ソレハ或ル程度マデ金額ヲ區分シテオヤリニナル御考デアリマスカ、ドウ云フヤウナ御取扱ニナリマスカ

○伊勢谷政府委員 御答ヲ申上ゲマス、假ニ左様ナル三種類ノ金融機關ニ扱ハセマスト致シマシタ場合ニ於キマシテモ、融資ヲ要スル資金ノ「コスト」等ニ付テ十分ナル考究ヲ遂ゲテヤラナケレバナラス次第デゴザイマスカラ、資金需要ノ必要ニ從ツテ其ノ範圍ヲ擴大スルト云フ方針ヲ以テ進ミタイト考ヘテ居リマスルガ故ニ、只今ノ所割合ニ付キマシテハ豫メマダ考ヘテハ居ラナイ次第デゴザイマス

○野田委員長 遞信大臣ニ私ノ希望ヲ申上ゲテ置キマスガ、私ノ質問ノ趣旨ハ可ナリ大キナ問題デアルト思ヒマス、或ハ産金振興株式會社ノヤウナ機關ヲ設ケテ、信託會社トカ或ハ保險會社トカ、サウ云フ風ナモノヲ通シテヤルト云フコトデモ宜イカモ知レマセヌガ、兎ニ角モ海運事業ニ對シテノ理解ノアルモノヲ一ツ金融機關トシテ大キナモノヲ作ラナケレバ、ドウシテモ日本ハ歐洲戰爭後ノ不況ノ苦盃ヲ嘗メテ居リマシタカラ、將來又反動ガ來ルト云フヤウナ時

ニハ、ア、云フコトヲ繰返ス危險ハナイカ、斯ウ云フヤウナコトノ心配ヲ持チマスノデ、特ニ御研究ヲ願ヒタイ——此ノ際政府カラ祕密會ニ於テ答辯フスルト云フコトニ保留セラレテ居ル點ガアリマスカラ、祕密會ト致シマシテ、議員外ノ關係ノ無イ方ノ退場ヲ求メマス

〔午後三時二分祕密會ニ入ル〕

〔午後四時四十分祕密會ヲ終ル〕

○野田委員長 是ヨリ公開シテ會議ヲ繼續致シマス——板谷君

○板谷委員 只今支那國策會社ノ外貌ヲ承リマシタガ、成程支那航海ニ於ケル所ノ同一ノ目的ニ於テ之ヲ統制ナサルト云フコトハ洵ニ結構デアリマス、結構デアルガ、我國ノ海運政策ノ方針トシテハ、餘リニ獨占的ノ弊ニ陥ルコトノナイヤウニ廣ク自由ニ或ル程度マデ航海サセルト云フコトガ、將來ノ我國ノ海運ヲ發展サセル所以デハナイカ、斯ウ考ヘデ居ルノデアリマス、先程來無統制ト云フヤウナ御話モアルガ、是ハ御承知ノ通り無用ノ競争ヲ防グ爲ニ、國家總動員法ト云フモノモ既ニ制定サレテ居ルシ、又船舶ハ船舶管理令ニ依ツテ航路ニ對スル統制ト云フモノモ出來テ居ル、ソコデ

御伺シタイコトハ、此ノ國策會社ガ出來タ後其ノ他ノ對支航路ハドウ云フ風ニ御取扱ニナルノデアリマスカ、新會社以外ニ航路經營ハ自由デアルカ、又制限ヲ付スルノデアルカ、是ハ我國ノ船舶界ニ取ツテ重大ナル關係ノアル問題ト思フノデアリマスガ、之ニ對スル御意見ヲ御伺シテ置キマス

○伊勢谷政府委員 此ノ會社ノ航路ト重複致シマスル航路ノ經營ハ是ハ競争ノ基トナリマシテ、甚ダ相互ニ不利益カト考ヘマスカラ、左様ナモノハ認メナイ方針ヲ執ル方ガ宜カラウト思ヒマス、然ラザル航路、殊ニ不定期航路ニ對シマシテハ、是ハ此ノ會社ニ獨占セシメナイ方ガ仰セノ通り海運發展ノ爲ニ結構ダト考ヘマスカラ、左様ナ方針デ進ンデ居ル譯デアリマス

○板谷委員 若シサウ云フ方針デアルトスレバ、我國ノ船舶界ノ發展ノ上ニ是ハ重大ナ影響ガアルトシナケレバナラスノデアリマス、政府委員モ御承知ノ通り私共モ從來南洋郵船ヲヤツテ、殆ド二十年間命令航路トシテヤツタノデアリマスガ、年々歳々補助金ヲ減ラサレ、サウ云フ關係カラ隨分苦心ヲシタ歴史ヲ持ツテ居ル、所ガ船ト云フモノハ御承知ノヤウニ水ノ上ニ浮ベテ到處ニ荷物ノアル方面ニ行クノデアリマス、隨

テ從來支那ニ於キマシテ日清汽船ノ如キ定期航路其ノ他ノ定期航路ト云フモノハ相當ニ活躍シテ居ツタノデアリマス、ソレデアラカラ之ヲ制限シテヤラセナイト云フヤウナ御考デアルトスレバ——勿論長江筋デアラウト思ヒマスケレドモ、是ハ重大ナル結果ヲ來スノデハナイカ、殊ニ先程ノ御話ノ通り或ル程度マデ船腹ガ足ラナイト云フコトデアルガ、是ハ當局トシテ餘程考ヘナケレバナラスト思フ、又從來社外船ト云フモノガ世界到處ニ活躍ヲシテ居ツテ、我國ノ海運界ノ爲ニ相當貢獻シテ居ルト云フ事實モ是ハ勿論御認メニナツテ居ルト思フガ、サウ云フ窮屈ナ國策會社ヲ御作リニナルノデアリマスカ

○伊勢谷政府委員 只今申上ゲマシタノハ定期船ノ航路デスガ、定期船ノ航路ニ於キマシテハ、例ヘバ只今ニ於キマシテモ内地カラ天津ニ行ク航路ニ致シマシテモ、青島ニ行ク航路ニシマシテモ會社ガ數社ニ分レテ居リマス、隨テ色々ナ點ニ不便ガゴザイマシテ、例ヘバソレガ命令航路デアリマシテモ航海回數ヲ増ス爲ニ船舶ヲ配船シナケレバナラスト云フ時ニドチラノ會社持ツカト云フヤウナコトニ非常ニ困難ガアリマシテ困ツテ居ルノデアリマス、隨テサウ云

フ定期船ノ航路ニ於キマシテハ、是ハ區々ニ競争シ、區々ニヤリマスコトハ決シテ得策デナイト考ヘラレルノデアリマス、況ヤ我國ノ所謂大陸政策ナルモノハ今後政治、經濟、文化各方面ニ互ツテ大陸ニ活躍ヲ致サナケレバナラヌノデアリマス、而モ其ノ活躍ナルモノハ所謂大動脈線ヲ傳ハツテノ活躍ト云フコトニナルノデアリマス、定期航路ノ如キハ其ノ最モ必要ナル設備デアルト考ヘラレルノデアリマス、苟モ大陸政策ヲ行フ以上ハ左様ナ航路ガ國策的ニ運營セラレ、其ノ目的ヲ達シ易クスルト云フコトガ非常ニ必要デアルト思ヒマス、更ニ一步ヲ進メテ考ヘテ見マス「ハイスビード」ノ旅客船ヲ以テ連絡スルト云フ必要ガアル場合ニ左様ナコトガ國策的ニ行ハレテ行ク、斯ウ云フコトガ總テ我ガ國民ノ大陸ニ於ケル活躍上ニ於キマシテモ、亦國防、軍事ノ上カラ考ヘマシテモ、洵ニ重要ナコトニナルト思ヒマス、隨ヒマシデ左様ナ定期航路ニ於ケル競争關係ナルモノハ是ハ出來ルダケ抑制スル方針ヲ執ルノ可トスルノデアナイカト考ヘラレルノデアリマス、然ルニ然ラザル方面、即チ競争トナラナイ方面デアリマス、或ハ貨物船、不定期船等ノ活躍ニ付キマシテハ、ソレガ無統制ニ

互ラザル限りニ於キマシテハ——ト申シマスノハ先程申上ゲマシタヤウナコトデ、ソコニ實値上ノ「プラン」ト云フモノガ立テラレルヤウニ仕組ンデ、サウシテ少クトモ自由潤達ナル發展ヲ爲シ得ルコトガ最モ好マシイ狀態デアルト考ヘラレルノデアリマス、是ハ我國是ハ我國ノ國策遂行ノ上カラ見デモ、又活潑ナル海運ノ海外發展ノ上カラ見デモ、極メテ重要ナ事柄デハナイカト考ヘテ居リマス

〇板谷委員 御説ノヤウニ或ル程度マデ統制スル必要ハアリマセウガ、又一面ニ於テハ自由ニ發達サセルコトモ御考ニナラナケレバナラナイ、對支國策會社ガ出來テ、其ノ結果國家ガ之ニ對シテ保護ヲ與ヘルコトモ成程結構デセウ、併シ其ノ結果トシテ所謂大會社ガ仕事ヲ獨占スルコトニナツテ、其ノ他ノ社外船ガ非常ナ不利ヲ蒙ル結論ニナル、隨テ日本全體ノ船舶界ノ發展ヲ圖ルニ付テ私ハ支障ガアルト思フ、成程定期航路ニ付テハ、或ル程度マデ統制ノ必要ガアリマセウケレドモ、荷物ハ必ズシモ制限サレテ居ルモノデハナイ、時ニ依ツテ多ク出、時ニ依ツテハ無イ場合モアルダラウ、ソコデ所謂不定期船ト云フモノガ荷物ノアル方面ニ向ツテ行クノデアリマス、之ニ對シテ

制限ヲ加ヘルト云フ御考ヲ御持チニナルノハ宜クナイト思フ、モウ一遍其ノ點ニ付テ伺ヒタイ

〇伊勢谷政府委員 不定期船ニ付キマシテハ、原則トシテハ制限ヲ加ヘルト云フ考ヲ持ツテ居リマセス、併シナガラ重要物資ノ輸送ノ點カラ致シマシテ、先程申上ゲマシタヤウナ方策ヲ或ル程度マデ採ルコトガ肝要ナコトデハナイカト考ヘテ居リマス

〇板谷委員 今申上ゲタコトハ重大ナ問題デアリマシテ、原則トシテハ云々ト云フ御言葉モアツタノデアリマスガ、是ハ餘程一ツ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ何時カノ議會デ外國間ノ航路ノ補助費ガ儲カ百五十萬圓力決定シテ居リマシタガ、アレハドウナツテ居リマスカ

〇伊勢谷政府委員 只今ノ御尋ハ所謂不定期船ノ遠航補助ト思ヒマス、之ニ付キマシテハ昭和十二年度ニ於テ之ヲ實施スル計畫デ進ンデ參リマシタガ、其ノ年ノ七月ニ日支事變ガ始マリマシタ爲ニ、遽ニ巨大ナル船腹ヲ近海ニ集中スルコトガ必要トナリ、遂ニハ非常ナ船腹不足ノ結果、遠洋ノ配船ヲモ引上ゲナケレバナラヌ狀態ニナツテ參リマシタ、ソレデ結局一時其ノ履行ヲ見合セテ居ツタノデアリマスガ、戰局ガ長クナ

ツテ參リマシテ、到底戰爭繼續中、近イ中ニハ中々是ガ實施出來ナイ狀態ニナリマシタノデ、此ノ豫算ヲ落スコトニ致シタノデゴザイマス、ソレデ豫算ハモウナイノデゴザイマス、併シ其ノ當時ニ於キマシテ懸念サレマシタコトハ、時局ガ終焉致シマスルカ、若クハ左様ナ方面ニ必要トナツテ居リマス船腹ガ、一時ニ必要ガナクナツタ場合ニハ、相當市場ヲ壓迫スル虞ガマリマスルシ、船腹ノ消化ニ惱ムコトニナリマスカラ、左様ナ場合ニ於テハ此ノ制度、此ノ方法ヲ實施シタイト云フコトニ付テ、或ル程度ノ諒解ヲ得テ居ル次第デゴザイマス

〇板谷委員 モウ一點御伺致シテ置キタイノデアリマス、此ノ海運組合ノ組織ハ聯合會ト云フモノガ出來テ居ルノデアリマスガ、之ヲ中央ニ設ケテ、地方ニ支部ヲ御置キニナル御考デアリマスカ、或ハ又各地方ニ單一ノ組合ヲ作ラセル御考デアリマスカ、此ノ點一應確メテ置キタイト思ヒマス

〇伊勢谷政府委員 大型船ノ組合ニ付キマシテハ、全國ヲ打ツテ一丸ト致シマシタ單一組合ヲ結成スルコトガ適當デアルト考ヘテ居リマス、然ラザル船舶即チ機帆船トカ帆船ニナリマス、一定ノ地區ヲ定メマシテ、組合ヲ組織シ、遂ニハソレガ全國聯合

會ノ結成ヲスルト云フ方針ヲ執リタイト考
ヘテ居リマス

○板谷委員 私ハ船員保險竝ニ海事行政ノ
統一以外ノ質問ハ是デ終リマス

○野田委員長 ソレデハ本日ハ是ニテ散會
致シマス、明日ハ午前十時ニ開會致シマス
午後四時五十七分散會